
水タマリカラ文学ヲ

村上 峻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

水タマリカラ文学

【Zコード】

Z7298A

【作者名】

村上 峻

【あらすじ】

堤真人は自分の人生を変えようとしていた。スケーターパンツの中の改造エアガンの感触を確かめながら・・・NEETのNEETによるNEETの為の小説。

堤真人 第一話

時間を元に戻す事なんて出来ない。そんなことは、今年20になる堤真人にはよく分かつていた。

今、堤真人が立っている場所は、夏の日差しが照りつける横断歩道の手前のタイルの上。歩道橋の入り口と、粉を吹いたガードレールのそば。堤は太めのスケータージーンズのポケットの中に手を入れ、改造エアガンの感触を指で確かめた。

高校を卒業してすぐに就職した、自動車メーカーでの仕事を辞めてから、堤はしばらく気の向くまま町をふらついていた。やがて遊ぶ金がなくなると、家にこもってインターネットの掲示板やチャットに熱中する日々を送っていた。

母親は真人に甘く、真人がおとなしい声で金をせびると、タバコ代くらいはいつでも楽に真人にくれる。父親は、真人が幼いときに自衛官を退職し、今は長距離トラックの運転を仕事としている。そのせいで父親は殆ど家にいないし、父親の存在は真人の中ではかなり希薄な物だった。

横断歩道の信号が赤から青に変わるまでの間、堤は、緊張をほぐす為に頭の中で音楽を流し始めた。高校一年の時にテニスで県大会に出場したときにはがくがくと無惨に震える自分の腕の震えををこうやって沈めたものだ。真人が自分で考えついたメンタル・コントロールの一つだった。

堤がこれからしようとしてしている事は、堤の人生を大きくねじ曲げてしまうに違いなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7298a/>

水タマリカラ文学ヲ

2010年10月13日02時55分発行